

令和7年度 学力・体力向上プラン

学校名 中央区立久松小学校

1 課題

| 児童・生徒の学力の課題 | |
|-------------|---|
| 国 語 | <p>【4月】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・様々な図書に親しみ、読書する習慣が身に付いていない児童がいる。 ・「令和6年度学習力サポートテスト」における「漢字を書く」ことの内容において、区平均正答率を第4学年で0.1ポイント、第5学年で1.7ポイント下回っており、習得に課題がある。 ・「文章を書く」ことの内容で区平均正答率を第4学年で1.2ポイント、第5学年で0.9ポイント下回っており、課題がある。 <p>【10月】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「令和7年度学習力サポートテスト」における国語全体としては、目標値より10%程度ポイント高く、学習内容の定着が図れていると言える。 ・「漢字を書く」では、前年度よりは上回っているものの、第5・6学年で目標値より1パーセント未満のプラスにとどまっている。 ・「文章を書く」では、どの学年も目標値は上回っていたが、区平均を下回っている。 <p>→漢字の定着に至るまでの反復の練習時間の減少や、学習した漢字を使用して文章を書くことへの意識の低さが原因であると考えられる。</p> |
| 算数・数学 | <p>【4月】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・既習事項を使って自身の考えを表現する場面で課題がある。 ・「令和6年度学習力サポートテスト」における第4学年で、「数と計算」において1.1ポイント、「図形」において0.9ポイント、「測定」において0.2ポイント下回っており、課題である。 ・「令和6年度学習力サポートテスト」における第4学年で、「円と球・三角形」において、区平均正答率を0.9ポイント下回っている。第5学年で、「いろいろな形」において、区平均正答率を2.1ポイント下回っている。図形領域において課題がある。 <p>【10月】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「令和7年度学習力サポートテスト」における算数全体としては、目標値より10%以上ポイント高く、学習内容の定着が図れていると言える。 ・前年度と同様、第4・5・6学年で、図形の作図などの問題で目標値を大きく下回っている。 <p>→図形の定義や性質、条件、器具の使い方の理解を確実にし、実際に作図する活動時間の不足や活動の減少が原因であると考えられる。</p> |
| 社 会 | <p>【4月】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会的事象についての具体的な資料を読み取ることができるが、課題に対して調べたこと、分かったことを生かしながら考えを整理し表現することに課題がある。 ・「令和6年度学習力サポートテスト」における第4学年で、「安全を守る働き」で区平均正答率を1.7ポイント、「市の様子の移り変わり」で3.4ポイント下回っている。観点別では、「知識・技能」の観点において区平均正答率を1.2ポイント下回っており、課題である。 <p>【10月】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「令和7年度学習力サポートテスト」における社会全体としては、目標値より10%程度ポイント高く、学習内容の定着が図れていると言える。 ・第4学年では「工場の仕事」、第6学年では「米づくりの作業」での資料を読み取る問題で、目標値より下回っている。 <p>→自分で資料を読み取ったり、2つの資料を比較して考えたりする活動の不足が原因として考えられる。</p> |

| | |
|------|--|
| 理 科 | <p>【4月】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実験・観察に使用する器具の正しい扱い方やそうした器具を活用することで何があきらかになるのかなど、基本的な活用方法に対する理解が不十分な点が課題である。 ・「令和6年度学習力サポートテスト」において、第4学年では区平均正答率を「知識・技能」で3.9ポイント、「思考・判断・表現」で1.9ポイント「主体的に学習に取り組む態度」で3.1ポイント下回っている。 <p>また、内容でみると区平均正答率を「昆虫の育ち方」において7.8ポイント、「昆虫の体のつくり」において3.4ポイント、「音の性質」において7.9ポイント、「磁石の性質」において2.5ポイント、「物の重さ」において4.1ポイント下回っており、課題である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「令和6年度学習力サポートテスト」において、第5学年では区平均正答率を「1年間の植物の成長」で1.1ポイント、「1年間の動物の様子」で1.8ポイント、「動物の体のつくりと運動」で2.5ポイント下回っており課題である。 <p>【10月】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「令和7年度学習力サポートテスト」における理科全体としては、目標値より6.7ポイント高く、ある程度学習内容の定着が図れていると言える。 ・第4学年では、「植物の育ち方」「磁石の性質」で、目標値を下回っている。 ・第5学年では、「天気の様子と気温」「月と星」で、目標値を下回っている。 <p>→実験や観察などの実体験が減少し、日常の生活と結び付けられていないことが原因として考えられる。</p> |
| 英 語 | <p>【4月】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高学年は読み・書きの能力に個人差がある。 ・学習したことを生かし、自己表現する力や積極的に課題を解決していくなど、主体的に学習に取り組む態度を育てることが課題である。 <p>【10月】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「令和7年度学習力サポートテスト」(第6学年)では、目標値より14.2%ポイント高く、第5学年までの学習内容を理解していると言える。 |
| 体力向上 | <p>【4月】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・筋力や巧緻性・柔軟性、また固定器具等を使った運動の能力について、個人差が大きい。 ・「令和6年度 東京都児童・生徒体力・運動能力、生活・運動習慣等調査」において、握力、ソフトボール投げの数値が、男女ともに全学年にわたり、全国平均と同等、もしくは数値が低かった。 <p>【10月】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「令和7年度 東京都児童・生徒体力・運動能力、生活・運動習慣等調査」において、以下の3つの課題が出た。これらは、昨年度とも重なるところが多い。 <ul style="list-style-type: none"> ① 握力・ボール投げが全国平均を下回る学年が多い。 ② 長座体前屈や柔軟系項目は良好だが、実用運動能力とのギャップがある。 ③ 20m シャトルランのばらつきが大きく、持久力に個人差がある。 |

2 年度末までの目標及び指標、具体的な取組

| | 年度末までの目標及び指標 | 具体的な取組 |
|-----|---|--|
| 国 語 | <p>【4月】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「令和7年度学習力サポートテスト」において、どの学年も「書くこと」の領域で区平均正答率を上回るようにする。 <p>【10月】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文章を書く際には、これまで学習した漢字を正しく使えるようにする。 ・「漢字を書く」「文章を書く」ことについて、すべての学年で区平均を上回るようにする。 | <ul style="list-style-type: none"> ・年間を通して文を書く機会を設けて、書く力の育成に努める。 ・日常生活に必要な国語の知識や技能を育成に努める。 ・学級文庫や学校図書館を活用したりして、読書活動を促進する。 ・学んだことを使って、書いたり話したりすることの機会を増やす。(言語活動の充実) ・漢字ドリルでの練習やミニテストを活用し、漢字の定着を自己確認できるようにする。 |

| | | |
|-------|--|--|
| 算数・数学 | <p>【4月】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「令和7年度学習力サポートテスト」において、どの学年も「図形」の領域で区平均正答率を上回るようにする。 <p>【10月】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・測定や図形の作図などの理解を深め、確実な定着を図る。 ・すべての学年において「図形」の領域で区平均正答率を上回るようにする。 | <ul style="list-style-type: none"> ・「図形」の領域において、実際の活用場面と関連付けながら、基礎的な知識、理解を高める。 ・課題に対して筋道を立てて考察する力を育てる。 <p>→図形の定義や性質、条件、器具の使い方の理解を確実にし、実際に体験したり、かいたりすることの反復を行っていく。</p> |
| 社会 | <p>【4月】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「令和7年度学習力サポートテスト」において、どの学年も教科全体で区平均正答率を上回るようにする。 <p>【10月】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料から必要なことを選んだり、2つの資料を比較したり関連付けたりすることができるようになる。 ・すべての学年で、全領域が区平均を上回るようにする。 | <ul style="list-style-type: none"> ・社会的事象において主体的に課題を追究する力を育てる。 ・第4学年「安全を守る働き」「市の様子の移り変わり」では、体験的な学習を意図的・計画的に取り入れ、知識や技能をより確かなものにする。 ・資料の読み方を知り、資料を読み取って気付きや考えを話し合う時間を増やし、理解を深めていく。 |
| 理科 | <p>【4月】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「令和7年度学習力サポートテスト」において、どの学年でも教科全体で区平均正答率を上回るようにする。 <p>【10月】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身の回りの自然や現象に触れ、体験する活動に積極的に取り組めるようになる。 ・すべての学年で、全領域が区平均を上回るようにする。 | <ul style="list-style-type: none"> ・問題→予想→実験・観察→結果→考察の授業の流れを押さえて学習を行う。 ・写真や図、模型や映像資料を活用し、視覚的に捉えて理解を深める。 ・実験や観察を充実させるために、理科支援員と連携して実験準備を行う。 ・実験や観察などの実体験の場を増やし、気付きや理解を深められようとする。 |
| 英語 | <p>【4月】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「令和7年度学習力サポートテスト」において、教科全体で区平均正答率を上回るようにする。 <p>【10月】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・積極的に英語でのコミュニケーションを図り、区平均を上回るようにする。 | <ul style="list-style-type: none"> ・学習したことを生かして、主体的に自己表現しようとする態度を養う。 ・写真や図、映像資料を活用し、視覚的に捉えて理解を深める。 ・ALTとのコミュニケーションを多く取り入れ、それぞれの場面の受け答えについてより理解を深める。 |
| 体力向上 | <p>【4月】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・東京都児童・生徒体力・運動能力、生活・運動習慣調査において、児童が個々の記録を上回ることができるようになる。特に、握力・投能力の向上を目指す。 <p>【10月】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「令和7年度 東京都児童・生徒体力・運動能力、生活・運動習慣等調査」で課題となった投力、握力、持久力の向上を目指す。 | <ul style="list-style-type: none"> ・児童が運動の技能を高め、運動を通じてできる喜びを実感させるために、水泳サポート教室やマット・跳び箱サポート教室、外部講師の授業を実施する。 ・体育授業の準備運動の中などで、継続して投力や握力の運動に取り組んだり、体育学習発表会、マイスクールスポーツなどと連携させ、長縄跳び、短縄跳びなどに取り組んだりして、持久力、基礎体力の向上を図る。 |

| 個別最適な学びと協働的な学びの充実 | |
|-------------------|---|
| 取組 | <ul style="list-style-type: none"> ・個々の特性等にあった多様な方法で児童が学習を進められるよう、ICT機器を活用した学びの推進と実践のための情報交流を行う。 ・児童の習熟度や課題に応じた指導のあり方を検討したり、デジタル教材を活用したりして適切な個別指導を行う。 ・学び合うことができる小集団活動を効果的に取り入れた学習を展開する。 |

| 探究的な学びの充実 | |
|-----------|--|
| 取組 | ・校内研究を中心とし、学年でのカリキュラムマネジメントを充実させる。 ・総合的な学習の時間、生活科において、探求的な見方や考え方を働かせる課題解決に取り組む。 |

| 読解力の育成 | |
|--------|--|
| 取組 | ・読書活動の推進のために、図書館の移動による整備、充実、朝の読書タイムの増加、読書委員会を中心とした読書活動の推進、読書月間の設定を行う。 ・言語活動の充実、小集団活動の充実を授業改善の重点的な視点とし、学年で授業の工夫、改善を行っていく。. |